

Google Workspace におけるアカウント間共用メールの実現

末長 宏康¹⁾, 爲末 隆弘¹⁾, 小原 誠²⁾, 服部 直樹³⁾, 田中 凡子⁴⁾

1) 山口大学 情報基盤センター

2) 山口大学

3) 山口大学 総務企画部 総務課 DX 推進室

4) 山口大学 理学部

hsuenaga@yamaguchi-u.ac.jp

Implementation of Shared Email Between Accounts in Google Workspace

Hiromichi Suenaga¹⁾, Takahiro Tamesue¹⁾, Makoto Kobara²⁾, Naoki Hattori³⁾, Chikako Tanaka⁴⁾

1) Center for Information Infrastructure, Yamaguchi Univ.

2) Yamaguchi Univ.

3) DX Promotion Office, General Affairs and Planning Department, Yamaguchi Univ.

4) Faculty of Science, Yamaguchi Univ.

概要

山口大学においては、Google Workspace の導入に伴い、メールサービスを Gmail に移行することとなった。その際、従来システムで行われてきたメールの共用を Gmail にてどのように実現するかが課題となった。その課題を、あるアカウントの Gmail に対して、別なアカウントを代理人として委任設定することと、その代理人を Google グループで作成したグループにすることで、メールの共用を実現し、解決した。本稿ではその方法について報告する。

1 はじめに

DX を支える基盤として、各大学に Microsoft 365 や Garoon, Google Workspace など様々なクラウドサービスが導入されている [1, 2]。山口大学においても、2024 年に Google Workspace (GWS) を導入した。GWS の導入に伴い、これまでオンプレミスシステムで提供してきたメールサービスを Gmail へ移行することになった。個人のアカウントで利用しているメールにおいては、GWS 側へアカウントを作成することで、移行可能であるが、山口大学においては、組織で利用しているアカウントが存在しており、そのメール環境をどのようにして移行するかが課題になった。

組織で使用しているアカウントにおいては、従来のメールサービスでは複数の利用者間でアカウントを共用することで、メールの共用を実現していた。しかし、アカウントを共用することは、GWS をはじめ多くのクラウドサービスで不適切な利用とされており、パスワードなどが漏洩するリスクが高い点などからセキュリティ上も問題である。更に、アカウントに対して、

多要素・多段階認証を必須化した場合、アカウント共用自体が困難となる。

そこで、GWS において、山口大学の従来メールサービスで利用可能であった複数利用者におけるメールの共用を、パスワードなどの共用を行わない方法で、GWS 上で実現する方法を検討し、実装した。本稿ではその方法を報告する。

2 GWS におけるメールの共有

今回実現するメール共有は、具体的には以下の要件を満たす必要がある。

- 受信メールおよび送信済みの控えメールを共有可能であること。
- 共有しているメールアドレスの利用者名（例えば組織名）でメールを送信可能であること。
- 特定のアカウントを共有対象から外した場合、該当メールアドレスの受信メール、送信済み控えをそのユーザが閲覧できない状態になること。

受信メールを複数のメールアドレスに配信するには、

メーリングリストを利用することが一般的である。GWSにおいても Google グループの機能でメーリングリストを利用可能である。メーリングリストの場合、常に CC. や BCC. にメーリングリストのアドレスを入れることで、実質的に送信控えを共有すること、メールアプリの送信者情報を変更することで、メーリングリストのアドレス、つまり共有しているメールアドレスでメールを送信することが可能である。しかし、あるアカウントを共有対象から外しても、そのアカウントに届いたメーリングリストアドレス（共有アドレス）のメール、および送信控えは、そのアカウントのメールフォルダに残るため、3つ目の要件を満たせない。そこで、メーリングリストではない方法で、実現する方法がある。

2.1 Gmail の代理人設定によるメール共有

3つ目の要件を満たすためには、共有するメールアドレスに対して、他のアカウントとは独立なメールフォルダがあれば良いが、そのために単純にアカウントを発行して利用するだけでは、アカウント共有になってしまう。そこで、あるアカウントの Gmail に対して、他のアカウントからのアクセスを許可する、Gmail の委任設定を用いて、メールの共有を実現することを考えた。

まず、GWS に共有対象のメールアドレスを持つアカウント作成する。次に、そのアカウントの Gmail にて別なアカウントを代理人として設定し、Gmail の委任を行う。その様に設定することで、Gmail のウェブアプリにて、委任された Gmail を自身の Gmail と同様に操作できるようになる。委任する Gmail のアカウントのパスワードなどは、代理人アカウントの利用者に伝えなくとも委任された Gmail を操作できる。よって、委任する Gmail のアカウントに対しては、管理者が委任設定を行うときのみログインするようにすることで、アカウントを共有することも無くなる。

ただし、このままでは、代理人を変更するたびに管理者が対象アカウントの Gmail の委任設定を変更する必要がある。そこで、委任する Gmail の代理人を Google グループで作成したグループで設定することで、そのグループのメンバー設定により、どのアカウントを代理人とするか変更できるようにした。グループのメンバーは、そのグループのマネージャーのロールを持つアカウントであれば、変更可能である。これにより、一旦グループのメールアドレスに対して Gmail の委任設定を行えば、委任元のアカウントへのログインや、管理者による設定も必要なく、代理人を変更で

きるようになった。

この、Gmail の委任設定と、Google グループの組み合わせによるメールの共用においては、Gmail のウェブアプリの機能を利用しているため、PC のメールアプリやスマートフォンからは利用できないという制約がある。そのことにより、利用者への提供開始直後は、メールソフトで利用したいといった問い合わせや、スマートフォンから利用できるようにしてほしいといった要望があったが、共用メールは主に業務で利用するため、PC での利用が主であることと、仕様上困難であることが受け入れられ、問い合わせ、要望は程なくして概ね終息した。

3 まとめ

山口大学においては、Google Workspace の導入に伴い、メールサービスを Gmail に移行することになり、従来システムで行われてきたメールの共用を、Gmail にてどの様に実現するかが課題であった。その課題を、共用メールは PC のメールアプリなどでは利用できない制約があるものの、Gmail の委任設定と、Google グループを組み合わせることで、GWS の Gmail においてもメール共有を実現し、解決した。

さらに、今回の共用メールの実現によりアカウント自体を共用しなくとも、メールを共用することを実現できた。この事により、従来メールサービスで課題であった、アカウント共用によるセキュリティリスクを軽減する事が出来た。

一方で DX を推進する観点からは、従来と同様の共用メールを実現することは、従来のメールに依存した業務形態から脱却し辛くなる懸念がある。しかし、山口大学においては、クラウドサービスである GWS を業務利用し始めたところで、まずは新しいサービスに慣れることが重要であると考えている。そのため従来サービスに近い機能を実現できたことは、新しいサービスの利用促進に寄与すると考えている。今後も新しいサービスの利用促進をはかりつつ、DX を支える基盤として浸透させていくことが重要である。

参考文献

- [1] 絹川真哉, 坂野井和代, 南千春, 武田享也, 駒澤大学における業務の IT 化と DX, IDE 大学協会, 8-9 月号, No.653, pp.23-27, 2023.
- [2] 林豊洋, 黒崎覚, 金光昂志, 九州工業大学における Microsoft Teams の全学展開, 大学 ICT 推進協議会 2023 年度年次大会, pp.97-102, 2023.